

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：ウズベキスタン支部設立10周年セミナーでの同窓生との記念撮影。上段右：名古屋大学フォーミュラチームFEM

下段左：全学同窓会講演会。下段右：ホームカミングデイ前日の海外支部歓迎会

Upper Left: Commemorative photo with alumni at the 10th anniversary seminar of Uzbekistan Branch; Upper Right: Nagoya University Formula Team FEM; Bottom Left: The seminar of NUAL; Bottom Right: Welcome party for the overseas branches on the eve of Homecoming Day

Contents

特集1 第15回ホームカミングデイ報告 2
Report on the 15th Annual Homecoming Day

特集2 全学同窓会ウズベキスタン支部設立10周年行事 4
NUAL Uzbekistan Branch celebrates its 10th anniversary

同窓会ニュース 5,10
NUAL News

活躍する会員たち 6
NUAL People in Action

事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

特集では、第15回ホームカミングデイの様と、10周年を迎えたウズベキスタン支部・事務所の行事についてご紹介します。同窓会ニュースでは、全学同窓会講演会での小笠原文雄本同窓会岐阜支部長のご講演の様子をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、作家の辻さん、医師・弁護士の田邊さんにお話をいただきました。

In this issue's Special Features, we cover the 15th Annual Homecoming Day, as well as the 10th anniversary celebrations of the Uzbekistan Branch. In NUAL News, we report on Gifu Branch Chairperson Bunyu Ogasawara's address at the NUAL seminar. In the NUAL People in Action column, we speak to Mr. M. Tsuji, an author, and Mr. N. Tanabe, a doctor and lawyer.

第15回ホームカミングデイ報告

Report on the 15th Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会 代表幹事
和田 壽弘



1. はじめに

令和元年10月19日（土）、新元号となって最初のホームカミングデイが開催されました。今年も異常気象がめだち、巨大台風の襲来などにより、行事を開催できるかどうかの不安を懐かせるような天候・気候が続いていました。当日は雨天との予想でしたが、小雨に留まって少々安堵しました。行事日和とは言えませんが、ホームカミングデイ（HCD）を無事迎えられたことは喜ばしい限りです。

2. 第15回ホームカミングデイ

「社会の中の大学」というメインテーマの下に、卒業生、在校生、教職員や近隣住民の方々をお招きし、約3,000名の方々に来訪いただきました。今年は名古屋大学創立80周年を迎えて、主要行事の「名古屋大学の集い」では、例年のプログラムと異なって、記念特別企画が実施されました。

豊田講堂1階シンポジオンホールでは午前10時から、特別企画「未来社会を拓く科学：宇宙へ、そして地球へ」が開かれました。お一人目の講師は「はやぶさ2」プロジェクトマネージャーの津田雄一 ISAS/JAXA 准教授で「小惑星探査機はやぶさ2の挑戦」と題したテーマでお話いただきました。お二人目は、宮原ひろ子武蔵野美術大学准教授で、「地球と宇宙のつながりに迫る—天気を左右する太陽活動と宇宙



特別企画「未来社会を拓く科学：宇宙へ、そして地球へ」

環境変動」というテーマでした。この基調講演の後には、本学関係者とのパネルディスカッションも行われました。この講演会では例年と同様に、聴覚障害者のための「要約筆記」の対応がとられました。

午後1時15分には、豊田講堂ホールにて「名古屋大学の集い」が開催されました。夏目みな美さん（CBCアナウンサー、教育学部卒）の司会で始まり、松尾清一総長の挨拶に続き、柴田昌治全学同窓会副会長に豊田章一郎会長の挨拶を代読していただきました。今回は、卒業後10周年、20周年、30周年、40周年、50周年、60周年を迎えられた卒業生・修了生を招き、約300名が参加しました。周年毎の卒業生をお招きして10年が経ち、一応すべての卒業生にご案内を差し上げたこととなります。

続く国際交流貢献顕彰授与式では、コンゴ民主共和国のンブリ・チャールズ・ボリコさん（国際連合食糧農業機関[FAO] 駐日連絡事務所所長）、上海支部副会長の張豪さん（日本東朋テクノロジー株式会社専務取締役、上海東朋科技有限公司 CEO）、マレーシア支部長のナファリザル・ビン・ナヤンさん（Tun Hussein Onn University of Malaysia 准教授）の3名が受賞され、松尾総長より表彰状が、柴田副会長より記念品が手渡されました。

「名古屋大学の集い」の後半では、創立80周年記念特



名古屋大学の集い（松尾総長）



名古屋大学の集い（柴田副会長）



国際交流貢献顕彰受賞者との記念写真

別企画「未来のクルマ」が中日新聞社との共催で開かれました。この企画は「リレートーク」、特別講演「身体と移動のダイバーシティ」、特別座談会「未来のクルマ・クルマの未来」から構成されていました。「リレートーク」に先だって、名古屋大学 COI（未来社会創造機構）の拠点長でありプロジェクトリーダーも務める、トヨタ自動車未来創生センター S-フロンティア部担当部長の畔柳滋さんが「名古屋大学 COIと自動運転」について、本学モビリティ社会研究所の赤木康宏特任准教授が「自動運転車はこうやって走る」について講演されました。次に「リレートーク」に進んで、(株)マップフォー代表取締役・名古屋大学大学院情報科学研究科在学の橘川雄樹さんが「自動運転開発最前線」について、有志団体 CARTIVATOR の中村翼共同代表は「日本発 空飛ぶクルマ『SkyDrive』開発への挑戦」について、本学モビリティ社会研究所の石黒祥生特任准教授が「自動運転車×エンターテインメント」について、同研究所の中川由賀客員教授（弁護士、中京大学教授）が「自動運転の社会実装に向けた法制度のあり方」について、最後に同研究所の森川高行教授が「『ゆっくり自動運転』による高齢化地域イノベーション」について講演されました。自動運転の仕組みや地域再生に有効な手段としての自動運転について最先端の知識・技術を披露していただきました。

次の特別講演では、メディアアーティストの落合陽一筑波大学准教授に「身体と移動のダイバーシティ」というテーマでお話いただき、常識を打ち破るような「多様な身体の移動」を可能にする技術を映像で見せていただきました。本当に目から鱗でした。最後の座談会では、森川教授をモデレータとして、落合陽一さん、本学未来材料・システム研究所教授でノーベル賞受賞者の天野浩さん、WHILL 株式会社創業者である福岡宗明さんによる対談が行われました。

今回の HCD の新たな試みとして、「名古屋大学の集い」終了後に豊田講堂前で「名大ビアフェスタ」が開かれ、参加



海外支部歓迎会

者は軽音楽を聴きながら楽しく談義に花を咲かせました。150名を超える参加者がありました。他の会場では各部局および同窓会の諸行事がとり行われ、多数の施設の公開もあり、ご紹介できないのが残念なほどです。自動運転車展示、本のリユース市、農産物の販売、あかりんご隊科学実験、親子で楽しむ「動きづくり」「仲間づくり」体験—ラグビーを教材として—なども盛況でした。

ホームカミングデイ前日の18日夕刻には、翌日に国際交流貢献顕彰を受けられる方々を迎えて、全学同窓会による海外支部歓迎会を持ちました。岡田邦彦副会長、齋藤英彦副会長、伊藤義人副会長、西村今日子副会長および新設の岐阜支部の小笠原文雄支部長の参加の下、松尾総長はじめ役員の方々にもお出でいただきました。受賞者のお三方は、留学先として日本を選んだ理由、特に名古屋大学を選んだ理由をお話され、名古屋大学に対する熱い思いが参加者に伝わってきました。

3. 全学同窓会の新役員

ホームカミングデイの当日に第18回全学同窓会評議員会が開催されました。今年は平成24年より会計監査等でご助言をいただいていた田中清隆監事の退任が認められ、後任に木下芳宣さんを選出しました。木下監事は本学法学部のご出身で、愛知県弁護士会会長ならびに日本弁護士連合会副会長を歴任されました。また、国際開発研究科同窓会より選出される評議員を1名追加して2名とすることが認められ、同同窓会会長の野田真里茨城大学准教授に就任いただきました。この2名体制は同同窓会の国際的展開に裨益すると確信しています。

全学同窓会は皆様のご協力があって初めて活動ができます。物心の両面に渡るご支援を是非いただけますようお願い申し上げます。



創立80周年記念特別企画「未来のクルマ」特別座談会

全学同窓会ウズベキスタン支部設立10周年行事

NUAL Uzbekistan Branch celebrates its 10th anniversary

名古屋大学全学同窓会 連携委員会委員長 中野 富夫

2019年11月7日・8日の2日間、中央アジアのウズベキスタン共和国首都タシケントで開催された全学同窓会ウズベキスタン支部設立10周年に、全学同窓会和田壽弘代表幹事の代理として出席しました。今回の行事は、名大ウズベキスタン事務所設立10周年式典の一環として行われたものです。全学同窓会ウズベキスタン支部は、名大が事務所を設立した時に合わせて、2010年3月11日に第9番目の海外支部として設立されました。私は、10年前の支部設立総会に出席して以来のタシケント訪問でしたが、町の風景も様変わりしており驚きました。本学のウズベキスタン卒業生は約200名、現在約130名の留学生在籍しています。また卒業生の多くは母国で、政府機関役職員、法曹、大学教員、企業人として、幅広く活躍しています。

1日目は、タシケント市内のホテルで、事務所設立10周年式典、同窓会ウズベキスタン支部10周年、アジアサテライトキャンパス学院入学式があり、大学関係者、政府機関関係者、藤山駐ウズベキスタン大使も出席されて、盛大に行われました。式典は同窓生で名大ウズベキスタン事務所副所長のエルムロドフ・エルドルジョンさんの司会で進行了ましたが、その中でウズベキスタン事務所の10年間の活動を振り返り、初代事務所副所長のブルハノフ・アクマルさんが挨拶、エルドルジョンさんが報告を行い、出席者は興味深く聞き入っていました。続く同窓会支部10周年では、まず、私が、和田代表幹事の挨拶を代読し、それを受けて同窓生を代表し同窓会支部事務局長のイブラギモフ・ノディルさんが挨拶を行いました。

2日目は、タシケント郊外、山あいの保養地チャルワクのセミナーハウスで「同窓会ウズベキスタン支部10周年記念セミナー」が行われました。

このセミナーには、ウズベキスタン支部の同窓生が約30名参加しましたが、大学からは、法学部、医学部の教員、元



記念セミナーの様子

本学教員でウズベキスタンゆかりの人達が出席しました。

セミナーは、アクマルさんの司会のもと、まず私が、祝辞を述べ、その後で同窓生を代表して、アベゾフ・アジズベックさん（法学研究科同窓生）から挨拶がありました。それに続いて、本セミナーの主要行事である、3名の同窓生による発表がありました。内容は、「自分の役職に関係したウズベキスタンの現状及び名大留学時代の経験と現在の業務とのつながりなど」を中心としたもので、我々参加者は、この発表を通して同窓生の仕事の現状や活躍ぶりについて一層理解を深めることができました。

セミナー終了後に、同窓会支部の総会が開催され、初代バホディール・メルガノフ支部長の後任として、前述のブルハノフ・アクマルさんが選出され、2代目の同窓会ウズベキスタン支部長に就任しました。アクマルさんは、法学研究科博士課程修了で、現在ウズベキスタン共和国の国会議員として活躍中です。なお、ウズベキスタン共和国ミルジヨーエフ大統領が、昨年12月17日～20日に初の訪日をされました。大統領は12月18日に名古屋大学に於いて名誉博士号を授与されましたが、アクマルさん、エルドルジョンさんは、大統領訪日に随行しました。

総会終了後、全学同窓会や大学側出席者にアクマル新支部長から記念品の贈呈が行われ、出席者は、その心配りに感激しました。午後4時頃、行事は滞りなく終了し、参加者はセミナー会場を後にしました。

支部設立から10年が経過して、多くの同窓生が、ウズベキスタンの各界で活躍していることが実感できました。今回は現地2泊という、短時間の滞在でしたが、同窓生から温かいもてなしを受けて、思い出深くまた中味が濃い訪問となりました。



10周年記念式典の様子



アクマル新支部長から記念品の贈呈

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告

「なんとめでたいご臨終」（講師：小笠原文雄 医療法人聖徳会 小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック 理事長兼院長、日本在宅ホスピス協会会長、全学同窓会岐阜支部長、名古屋大学医学部特任准教授）

名古屋大学全学同窓会 代表幹事

和田 壽弘

名古屋大学全学同窓会講演会が令和元年11月27日（水）に、野依記念学術交流館において開催されました。6回目を迎えます。全学同窓会と一般社団法人学士会との共催で本学の後援を受け、124名の参加がありました。これまで12月上旬に開かれることが多かったのですが、会場などの都合により少し早い時期となりました。今回は、令和元年6月に設立された全学同窓会岐阜支部の支部長に就任されました小笠原文雄様をお迎えしました。

講演前には小笠原先生が出演されたテレビ番組が会場で映し出され、先生の優しい語り口が参加者に伝わってきました。講演の冒頭で、これまでの先生の活動を取りあげた「NHK World News」が紹介され、在宅ケアの重要さの入り口に触れました。続いて、末期癌などで余命宣告をされ、病院で抗がん治療を受ける中で苦しむ患者の方々が、自宅で最期を迎えることを希望した場合、どのような条件が整えば帰宅できるのかを数々の事例を通して説明いただきました。患者本人が最も望むあり方が余命を引き延ばす可能性が高いことも分かりました。これらの事例では、地域包括ケアシステム、つまり医療・看護・介護・福祉・保健にわたるトータルヘルスプランナーの下で連携することが重要だと感じました。家族と主治医が頑張ればできると思い込んでいた私たちには目から鱗でした。在宅ケアによって、国が負担する医療予算も節約できるというのが、先生のご見解でもあります。最後に、「死」が日常から遠ざかった社会に生きる私たちにとつ



講演会の様子

て、人の最期の時を見つめ直すということは、その人の「生」「いのち」を見つめ直すことだということも教えられました。

講演会後にグリーンサロン東山において夕食会が開催され、29名が参加しました。岡田邦彦全学同窓会副会長の開会挨拶で始まり、松尾清一総長、続いて学士会理事長代理として片岡大造同会代議員に挨拶いただき、そして木村彰吾名古屋大学理事・副総長に乾杯の発声をしていただきました。令和元年10月に退任された田中清隆全学同窓会前監事、小堀康生学士会事務局長にも挨拶をお願いし、最後に伊藤義人副会長の閉会の挨拶がありました。閉会時間が近づいても各テーブルでの会話は盛んで、まだ話し足りないという雰囲気の中で夕食会を終了しました。



小笠原文雄氏の講演



夕食会 岡田副会長の挨拶

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第33回は、文学部を卒業され数多くの漫画・アニメ脚本制作等でご活躍の辻真先さん、医学研究科で博士学位を取得され医療側の弁護士としてご活躍の田邊昇さんにお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 33rd installment, we hear from Mr. Masaki Tsuji, who since his graduation from the School of Letters has written a large number of manga and anime scripts, and Mr. Noboru Tanabe, who completed his doctorate in the Graduate School of Medicine and now works as a lawyer for medical facilities.

つじ まさき
辻 真先さん



■略歴

- 1932年 名古屋で生まれ育つ。
- 1954年 名古屋大学文学部卒業 NHK テレビ局勤務
- 1962年 NHK 退職 以後フリーとして、アニメ脚本・ラノベ・マンガ原作などを書く
- 1982年 推理作家協会賞受賞後は、徐々にミステリの世界へ軸足を移す
- 2008年 デジタルハリウッド大学教授
- 2010年 本格ミステリ作家クラブ会長（14年まで）
- 2013年 デジタルハリウッド大学名誉教授

ぼくのサブカル彷徨

名古屋大学を卒業して66年になる。思えば遠くへきたもんだ、という言葉が身にしみるといいたいが、よく考えてみればちっとも遠くへきていない。むしろおなじ場所を迷走するだけの生涯、という気分になる。

ここ十年の間にホームページを止揚、ツイッターを主にネットで発言するようになった。その内容は原則として、見た、あるいは読んだ小説・マンガ・アニメのたぐいだ。今のぼくの本職は推理作家だと

思うし、日本ミステリー文学大賞を頂戴したのだから、世間もそう見てくれているはずだが、ツイッターでは受け取られ方が違う。小説について発言しても「いいね」の反応はせいぜい二桁で、マンガなら反響は三桁がしばしば。これがアニメになると、フェイトシリーズの近作『絶対魔獣戦線バビロニア』の感想を呟けば、4桁の「いいね」が積み上がる。デジタル世代の目には、ぼくは活字畑ではなく映像屋と映っているらしい。

事実ぼくが、絵によるストーリーテリングの魅力にひかれたのは、文の魔力にとりつかれるより早かった。幼稚園にはいる以前に坂本牙城の『タンク・タンクロー』のナンセンスマンガに興奮しており、乱歩の『少年探偵団』シリーズに感動したのは、その翌々年小学生になってからだ。たいていの子供も似たコースを辿って、やがてマンガや大衆児童読物を卒業、幼い日々には首までどっぷり漬かった文化を忘れてゆく。

それなのに、ぼくはしぶとくマンガを読み、その発展であるアニメを見つづけた。同年代の人から見れば信じられない幼児性（自覚はあります）だ。た



毎年お台場で若者60万人を集めるコミックマーケットに、ぼくも出品販売に当たりました。



主演の十朱幸代は15歳でした。帯ドラマ「バス通り裏」を演出していたぼくと。

ぶんそれは初の就職先がテレビの制作現場だったことも関係している。

ぼくが名大を卒業した昭和29年は、東京局に一年遅れて、大阪・名古屋からテレビの電波が発射された年であった。それまで番組制作の裏方はラジオや映画舞台からの寄せ集めだったが、全国的なテレビ網を計画するNHKとしては、制作スタッフを本格的に養成する必要があった。名古屋でも新制大学（といわねばわからない時代だ）の卒業生を対象に急募した。天下のNHKだけあって中部地区では2000人の応募者があった。ところが希望職種を問われてテレビと答えたのはぼくひとりらしく、選考側もテレビには無知でテレビ脚本を読んでいたのはぼくだけで、集まる学生もNHKだから応募したので、映像文化に憧れて志望した者は皆無だった。

それもそのはずで大衆娯楽の王座は映画だから、創作意欲のある若者は大島渚を筆頭にみんな映画会社に身を投じていた。ぼくも実はテレビに無知であって、就職したNHK名古屋にテレビスタジオなんてひとつもなかったのだ。中学生のころから映画のシナリオを修行（飯島正・北川冬彦・伊丹万作といった先生の下で通信教育を受けていた）していたから、即戦力になると思われてか東京へ行かされた。長編マンガ映画『ガリバー旅行記』を見るため、片道10時間かけて上京した経験があるくらいにぼくが、やにわに東宝舞台の強者相手にセットの値段を交渉したり、深夜喫茶から借りた小道具を担いで銀座四丁目の交番に捕まったり、無茶苦茶な毎日がつづいた



大阪で開催されたマンガ王国の開会式で、里中満智子さん、赤塚不二夫さんたちと。

が、不特定多数の人々にむかって映像で編む物語を届ける楽しさが、いつもぼくを伴走してくれた。

映画やラジオに蔑視されていたテレビが、カラーとなりビデオができて、徐々に大衆文化の核になりつつあったころ、ぼくはNHKをやめてマンガとアニメの道に横這いしていった。『鉄腕アトム』『エイトマン』『巨人の星』『オバケのQ太郎』等々のアニメに関係して脚本を量産した。ぼくの年齢で全方位のマンガを知るシナリオライターは、レアものだから重宝だったに違いない。その代わりステータスは逆もどりした。大学を出てNHKに勤めて、今はマンガやアニメと自己紹介したら、爆笑されたことがある。誰も本気にしなかったのだ。一流書店はマンガを売らないのが当然だった時代で、ノベライズだのライトノベルだのという言葉もまだなかったし、「オタク」が小説に登場したのはぼくの書いた長編ミステリが嚆矢だと、なにかの本で読んだことがある。魚のいない池で釣り糸を垂れるのがぼくで、魚が集まれば釣客がふえ、ぼくはまた他の池を探しにゆく。

そんな迷走は今も変わらずつづいている。この春に出す予定の『たかが殺人じゃないか 昭和24年の推理小説』は、進駐軍の命令でスタートした男女共学を舞台に、近過去ミステリーという池の畔で糸を垂らしています。ご縁があったらぜひおめもじを。

たなべ のぼる
田邊 昇さん

■略歴

1984年	名古屋大学医学部卒業 東京都立駒込病院研修医
1985～1989年	名古屋大学大学院医学研究科
1989～1990年	国立名古屋病院血液病センター
1990～1993年	厚生省入省（健康政策局総務課 国立循環器病センターなど）
1993～1995年	東京大学法学部
1995～1998年	京都大学大学院法学研究科卒
1998～2000年	神戸大学大学院経営学研究科
2000～2001年	最高裁司法研修所
2001年	弁護士登録（現在に至る）
2012～2016年	京都簡易裁判所民事調停官

医学部に入学したのは、父親が外科医だったの
という月並みな理由でした。親元から離れて生活し
ようと思い、東北大、東大、名古屋大に願書を出し、
仙台までの旅費を節約して小遣いにしようと思い
立って切符を払い戻して、一番近い名古屋大学を受
けることにしたのが、名大入学の動機です（こんな
奴に同窓会の原稿を書かせていいのか）。宿も取っ
ておらず、交番でお願いして鶴舞の旅館に泊まりま
した。

大学時代の名古屋は、学生にとっては何でもあ
り、本当に楽しく遊ばせてもらいました。マー جان
も大流行で、大先生の講義があるのに、100人中4
人しかいないといって、学生が、一番いそうな場所
ということで探しに来たのが駅前の雀荘でした。

部活動は、医学部ラグビー部に入っていたことにな
っているようですが、当時は名古屋のグルメ制覇
を目指して食べまくってメタボでしたので、走るの
がいやで、試合なんかには出たことはありません。

医師国家試験もコタツ勉強会で無事乗り切り、グ
ルメ道を極めようと東京の病院で研修しようと東京
都立駒込病院で医師のスタートをはじめました。

どの診療科に進もうかと考えたのですが、もとも
と、なんでも興味を持つタイプだったので、死因の
ほとんどを占める、がん、血栓症（心筋梗塞など）、
感染症の専門領域（当時は腫瘍科や感染症科は独立
していませんでした）である血液内科に進もうと思
い、研修途中で大学院に進学しました。

大学院時代は、アルバイトに精を出し、全学向け
の語学プログラムや、各区の公民館でやってた語学
サークルに足しげく顔を出していました。おかげで
大学院在学中に国連英検 SA にも合格し、WHO に
勤めようかなと妄想をいただくようになりました。

そんな妄想があったからか、厚生省の名大の先輩
が誘ってくださり、厚生省に医系技官として入省し
ました。厚生省では特定機能病院の制度などを検討
したり、脳死臨調事務局に入ったりと、よい経験を
させていただきました。タイなどに国外出張したり
して、本気で留学して WHO に行こうかなと思い始
めていた矢先に、父親が病気になり、やむなく郷里
に帰ることにしました。

ダブルライセンス

法律の勉強はぼちぼちしていたのですが、力試しに受けた東大法学部の編入試験に合格でき、夜行バスで週1回の通学で無事卒業。東大はゼミも必修でないので、試験だけ受ければよいシステムです。試験も好成績だったのか大学院試験免除の特権までいただいたのですが、ちょうど阪神大震災が起これ、京大の大学院に進み、不法行為法を研究することにしました。

院試は名大も受けました。教授総出の面接で、某大先生が「どっかで見た顔ですね」と言い出しました。実は、その教授が非常勤で教えられていた大学のテンブラをして、ずうずうしくも質問までしていたので冷や汗でしたが、逆に大先生が、周囲の視線を感じて「いやいや 変なところでお会いしたわけではないのですよ」と釈明されていて、沙汰やみになりました。

研究室には受験生も多かったもので、これに触発されて司法試験を受けてみようと思った次第です。古本屋で買った昭和40年台の参考書なんかで勉強していたのですが、択一式は難なくパス。論文も勉強した3科目が良好な成績で、翌年合格を確信しました。しかし、翌年はちょうどボストンでの学会出張が重なってしまい、飛行機の中で頑張って勉強したのですが時差ボケで1点差で択一落ちという結果に。翌年は、試験直前の診療はできるだけ代わってもらい、無事最終合格できました。

修習を経て医療側の弁護士事務所に就職し、現在に至っています。名古屋はアンチ医療側の大御所弁護士グループがありますが、名大同志ということ

で、なんとなく柔らかく対応していただいている気がします。

ロースクールができて、医師免許をもつ弁護士もたくさん登場してきましたが、医療側の代理人需要はすでにいっぱい、みなさんなかなか大変なようです。非常勤裁判官として、民事調停官を4年間担当しましたが、法的紛争の当事者は大変な方が半分くらいで、街弁の大変さを感じました。

医師としては、自由にやれた時代に病院勤務をしていたので、現在の医療安全や訴訟対策など、かなり現場の臨床医は大変だと思います。生命身体をハンドルするだけでも大きなストレスなのに、これに負担をかけることが多すぎます。また、研究倫理審査の委員会も、全国レベルの委員会の経験を多数持っていますが、多量のペーパーワークが要求され、天才の自由闊達なアイデアを損なっているのではと思います。

学生どもは自堕落で大学も放任主義であった（他学部は詳しく知りませんが）名大の同窓から、大教授やノーベル賞研究者が輩出し、同級生たちも大成していることを思うと、大学の自治と自由は侵されてはならない制度的保障だと思います。

同窓会ニュース NUAL News

大学支援事業目録贈呈

令和元年11月8日（金）、2019年度第4回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和元年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、9件の応募から、表の5件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

令和元年度第1回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
国際機構国際連携企画センター 特任講師 ウズベキスタン事務所 副所長 全学同窓会ウズベキスタン支部 会員	エルムロドフ・エルドルジョン	「名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部10周年記念セミナー ―ウズベキスタン支部活動の回顧と将来展望―」
人文学研究科・准教授	梶原 義実	東山キャンパス内における古代窯業遺跡の周知公開
生命農学研究科長	土川 覚	農学部創立70周年に向けた卒業生との連携強化の取組み ～第15回ホームカミングデイにおける同窓生及び在学生及び教職員との交流支援～
E.S.S 部長 工学部機械航空工学科4年	松永 友裕	大学対抗英語ディベート世界大会の挑戦
経済学部経済学科3年	山田 祥子	混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ全日本合唱コンクール全国大会出場及び優勝に向けての練習



採択された事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

全学同窓会関東支部令和元年度講演・交流会開催

令和2年2月8日（土）14:30から、名古屋大学全学同窓会関東支部令和元年度講演・交流会を学士会館において開催しました。参加者は97名、今回は将来が期待される小学生5名、高校生1名の参加もありました。



渡邊教授の講演

丹羽宇一郎支部長の開会挨拶により、講演・交流会が開始されました。

講演会では、名古屋大学大学院環境学研究科渡邊誠一郎教授に「はやぶさ2の竜宮城滞在記」と題して、2014

年12月に打ち上げられ、2018年6月に小惑星“りゅうぐう”に到着した“はやぶさ2”の最新情報について講演して頂きました。“はやぶさ2”の“りゅうぐう”での活動について動画を交えてわかりやすく説明され、3億 km も離れたところで行われたミッションを間近で見ているような錯覚に陥りました。“はやぶさ2”は、岩石採取などのミッションを無事終え、残るミッションは今年末に岩石の入ったカプセルを地球に持ち帰ることのみとのこと、成功をお祈りします。

次に、松尾清一総長から「東海国立大学機構、4月始動！ 激動する社会の中で名古屋大学は新しい国立大学像を目指す」と題してご講演をいただきました。

和田壽弘代表幹事の乾杯の音頭で交流が始まりました。参加者は、それぞれのテーブルで、和やかにご歓談、講演者の渡邊先生のところには人が集まり、楽しくお話している様子がみられました。

会も終わりに近づき、伊藤義人副会長、小笠原文雄岐阜支部長、南方陽遠州会会長にご挨拶を頂きました。その後、名大男声東京 OB 合唱団有志から「いのちの歌」「なごり雪」「糸」の演奏、引き続き、全員で学生歌「若き我等」を合唱しました。

続いて、小堀康生学士会事務局長からの学士会紹介があり、最後に第八高等学校寮歌「伊吹おろし」を歌い、18:30閉会となりました。（関東支部事務局長 岸 徹）



参加者集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

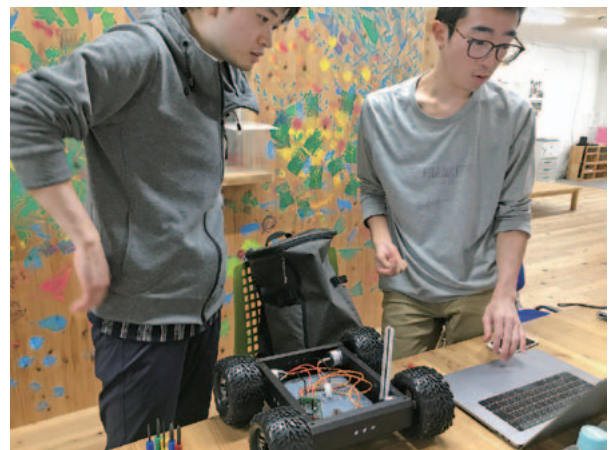
学生をハブとしたオープンイノベーション推進プログラム

申請代表者：宇治原 徹
(未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積センター 教授)

本活動では、学生の柔軟な発想に基づくアイデアと、東海地区のモノづくり企業の技術力を融合することで、新たな製品開発を行うことを目標として活動を行ってきました。具体的には、学生を中心としたアイデア創出ワークショップを実施、3Dプリンターや電子工作キットによりプロトタイプング、そのプロトタイプによるプレゼンテーションを企業見本市などで行うことによる協力企業とのマッチング、最終的には、学生—企業連合チームによる試作品開発を、学生が主体となって行いました。参加学生は、名古屋大学のみならず、東海地区の複数大学から集まり、また所属する学部も文系から理系、情報系、芸術系と非常に多岐にわたっています。

今回の活動においては、実際に複数の学生—企業開発プロジェクトが形成されました。その一つを紹介すると、「リトマス」と名付けられたチームでは、自らの海外旅行の経験から、水の安全性をその場でチェックできる簡易なトラベルグッズを発想し、水質の評価法などを大学教員や企業にヒヤリングを行い、プロトタイプを開発し、旅行者などへのアンケートなども行い、最終的には、複数企業の協力を得て試作品開発をするまでに至っています。この活動において最も驚くのは、企業人と学生が世代や立場の違いを、軽々と飛び越え、お互いに尊重しながら、また共感しながらモノづくりを進めていくところ

あり、さらに、企業同士も企業間の壁を乗り越えて議論を始めるところです。まさに学生がオープンイノベーションのハブとなっています。また、印象的だったのは、アイデアを創出した学生が、「進めていくうちに、自らのアイデアにどんどん愛着がわき、必ず実現したい、と思うようになった」と、話したことです。取り組みは、テレビ、ラジオ、新聞などにも取り上げられ、大きな反響があり、現在も製品化に向けた活動が進行中です。これらは、名古屋大学全学同窓会大学支援事業の支援なくしては実現できませんでした。大変感謝いたします。私たちは、これからも、革新的なアイデア創出の方法論を取り入れて、多様な分野の学生が生み出すアイデアと、企業が持つ優れた技術をマッチングし、未来のモノづくりにチャレンジする場を提供していきます。



電子工作キットを活用し、アイデアのプロトタイプングを実施中です

名古屋大学フォーミュラチーム FEM 4輪独立駆動 EV 車両による全日本学生 フォーミュラ大会制覇

申請代表者：中野匠望
(工学部物理工学科材料工学コース4年：2019年3月卒業)

私たち名古屋大学フォーミュラチーム FEM は2003年のチーム結成から毎年9月に開催されている全日本学生フォーミュラ大会に参戦しています。2014年大会においては海外チームを含め96チームの中で総合優勝・経済産業大臣賞受賞を果たしました。また、2015年よりEV プロジェクトを発足、約1年半の準備期間を経て2017年大会よりEV 車両にて大会に参戦し、2017年・2018年と2年連続でEV クラス優勝・国土交通大臣賞受賞を果たしています。そして2019年大会では、これまでの1モーター車両ではなく4輪それぞれにモーターを搭載する4輪独立制御車両によって参戦するため、全学同窓会様からのご支援のもと搭載モーター／インバーターを購入させていただきました。

2017年から4輪独立制御について準備を進めていたが、電子制御面だけでなく機械構造面についても従来の車両から大きな変更を強いられたために課題が山積していましたが、そんな中でもシミュレーターを活用し、車両モデルを用いて車両を作り上げていきました。その結果全98チーム(うち海外27チーム)が参戦した第17回全日本学生フォーミュラ大会において、加速性能を競うアクセラレーション部門、旋回性能を競うスキッドパッド部門ともに4位を獲得するなど、高い次元でのバランスに優れた車両を作り上げることができました。また、車両設計についても、その妥当性・狙いを自動車メーカーのエンジニアとディスカッションするデザイン審査では3位、特別賞もベスト電気回路設計賞1位など合計3つの部門でいただくことができました。結果としてこれら種目別成績を合算した総合成績では参戦以来3年連続となるEV クラス優勝を果たし、ガソリ



集合写真

ン車を含めた総合では2年連続となる3位となりました。この成績は全学同窓会様をはじめ多くのスポンサー様の温かいご支援なしでは成し得ませんでした。ここに感謝申し上げます。

これからも私たちはよりハイレベルな欧州勢や、近年台頭著しいアジア圏勢のチームに「勝つ」ため、今年度の反省を踏まえ来年度車両の設計製作に取り組み続けていきます。もし私たちの活動に興味を持っていただけの方、資金面・技術面でのサポートを検討していただける方がいらっしゃいましたら個人・法人問わずご連絡いただけると幸いです。

名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場及び優勝 に向けての機体製作及び運用

申請代表者：安形尚憲
(工学部機械航空宇宙工学科3年)

私たちは鳥人間コンテストに出場することを目的として活動してきました。例年、高速機によるタイムトライアル部門に出場していたのですが、この部門が廃止となったため、2017年から新しく長距離飛行の部門に挑戦することとなりました。しかし、長距離飛行を目的とした機体は高速機と比較して風の影響を受けやすく、2017年度、2018年度の結果から様々な風を考慮した操縦技術が必要であるという結論に至りました。本サークルではパイロットの操縦技術を高めるため飛行シミュレーターを使用していますが、このシミュレータを強化し様々な状況に対応できるシミュレータにしようと考えました。しかし、例年通りの会計では機体製作に当てる費用しかなく、他に充てる予算がありませんでした。そこで、同窓会支援を受けVRゴーグルを導入することにより、視覚的に本当の飛行に近い状況での訓練が可能となりました。周りの景色を琵琶湖上にするにより、本番と同じ状況での練習が可能となりました。さらに、プログラムを組み様々な風を再現することにより、風の影響や



試験飛行の様子

機体の挙動からどのような操舵を行えば良いかをより現実的に理解することが出来るようになりました。

実際の試験飛行を行う際のパイロットの運搬費用に同窓会の支援を充て、パイロットの体調を万全のものにし、試験飛行を実施しました。結果として、例年よりもパイロットの操縦技術が向上していたため、VR シミュレータがパイロットの操縦技術向上に貢献していることを確認することができました。また、パイロット以外にも次世代の設計担当者がシミュレータを用いて操縦することにより次世代の機体設計に用いることができ、よりよい機体設計が可能となりました。今年度、鳥人間コンテスト出場は叶いませんでしたが、今後鳥人間コンテストで戦っていく上で、大きな力になると考えられます。

スイス、ジュネーブで例年開催される Global Leadership Programme への学生・大学院生の参加支援

申請代表者：松浦好治

(大学院法学研究科 特任教授 (申請時) 博士課程教育推進機構 特任教授 (現在))

2019年8月22日から9月4日までの14日間、スイス、ジュネーブのジュネーブ大学多目的施設で“2030 Development Agenda and Sustainable Future”プログラムが開催されました。2週間の期間中、多国籍の参加者25名は、午前中、国際機関の専門家の講義を受け、午後は、国際機関を訪問して調査を行いました。全参加者は5つの小グループに分かれて共同調査と研究を行い、プログラムの最終日にそれぞれ1時間の共同報告を行いました。参加者は、これらのプログラムをすべて英語でこなしました。

名古屋大学からは、12名の参加希望者があり、英語面接による学内選考の結果5名（日本、中国、ベトナム、カンボジア、オーストラリア各1名）が選ばれました。名古屋大学全学同窓会からプログラム受講料補助がこの5名の参加者に支給されました。

参加者は、出発前に定期的な準備会に参加し、英文で履歴書、自分の研究の概要説明書、学習計画書、訪問予定の国際機関等の調査計画作成を行い、受け入れ先との調査実施の折衝訓練や個別の調査計画書の作成訓練を受けました。

今年度のプログラムには、大学教員、大学院生、学部生、インターナショナルスクールの高校生など25名が日本、中国、ベトナム、カンボジア、オーストラリア、トンガ、サモア、台湾から選抜され、共同生活と共同研究を行いました。講義を担当したのは、ジュネーブ市政府経済開発部門の責任者、ジュネー

ブ大学教授、バーゼル大学教授、国際機関である WTO、ILO、UNDP、WMO 等の専門家です。5つの共同研究グループのそれぞれには、大学での教育経験のある専門家がアドバイザーとして配置され、指導に当たりました。

9月4日のプログラム最終日には、プログラムの講師を務めた専門家や各グループのアドバイザー、NGO 関係者が出席し、5つの共同研究それぞれについて(国際貿易、気候変動、人権、労働、パートナーシップ)、参加者がパワーポイントの資料を用意して、各40分の研究報告を5人で分担して行い、専門家からの20分の質疑に応えました。

参加者は、複数の言語を使って展開されるジュネーブの国際政治を体感し、最新の国際的な議論を聞き、国際機関の専門家と直接意見交換する経験をしました。文化や経歴の違うさまざまな分野の人たちと一緒に調査研究し、パスポートチェックなしにスイスとフランスやドイツ、イタリアを行き来できる経験も新鮮であったようです。



国連専門家によるブリーフィング風景

名古屋大学教育学部創設70周年記念行事の開催

(記念式典、記念講演、公開シンポジウム、記念祝賀会)

申請代表者：植田健男 (当時)

(教育発達科学研究科・研究科長)

高井次郎 (現在)

(教育発達科学研究科・研究科長)

教育学部は、岡崎高等師範学校を一部継承しつつ、昭和24年（1949年）5月31日の国立大学設置法の公布により新制の名古屋大学の発足とともに創設され、今年70周年を迎えることとなりました。教育学部ではこれを記念し、10月19日の第15回名古屋大学ホームカミングデーの当日、工学部 IB 電子情報館大講義室にて、記念式典と記念講演会、公開記念シンポジウムを開催しました。これらの一連の行事の開催につき

ましては、全学同窓会よりご支援を賜ることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

記念式典では、来賓として、文部科学省高等教育局より吉成竜也様、京都大学教育学研究科長の稲垣恭子様、本学の篠田弘名誉教授、また本研究科の国際学術交流協定校であるモンゴル国立教育大学を代表して特任教授のニャムジャブ・ダンザン様にお越しいただき、それぞれ暖かい御祝辞をいただきました。なお、モンゴル国立教育大学からは本学部70周年を祝しての絵画と掛け軸の贈呈を受けました。他にも元文部科学大臣で参議院議員の林芳正様、北京師範大学教育学部長の朱旭東様、東京大学大学院教育学研究科長の秋田喜代美様よりお祝いのメッセージをいただき披露させていただきました。記念式典に続いて、大谷尚本学名誉教授・特任教授による講演会「質的データ分析手法 SCAT の開発とその展開から学んだこと」、本研究科の河野荘子、高井次郎、内田良、田附紘平、石井秀宗(司会担当)の各教員による公開シンポジウム「ミスコミュニケーションとオーセンティックコミュニケーション—多様性を認めあう社会の実現に向けて—」を開催しました。約120名の来場のみなさまとともに活発な討議が展開され、盛況のうちに終了しました。

記念祝賀会につきましては、夕刻より会場を南部生協「彩」

に移し、松尾総長をお迎えし、本学名誉教授、学部・研究科の同窓生、本学の新旧教職員、学生ほか総勢約200名のご出席の皆さまとともに、鏡割りなどのイベントを挟みながらの心地よい歓談のときを過ごすことができました。

学部創設70周年記念事業のいずれにつきましても、皆さまの温かいご支援とご協力の下に盛況のうちに開催することができました。教育学部・教育発達科学研究科は、今後も誠実かつ着実に教育研究活動に邁進する所存でございますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



モンゴル国立教育大学から寄贈された絵画ほか

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 東山会関東支部第13回総会

日 時：5月30日(土) 13時より

場 所：学士会館

今回の特別講演は「様変わりする宇宙開発—宇宙航空の最近の動向から」

JAXA(宇宙航空研究開発機構)元副理事長 樋口清司氏

詳細については、東山会関東支部 HP

<http://www.higashiyamakai-kanto.com/>

問い合わせは支部長山本まで。

E-mail:yamamotoma3@jcom.home.ne.jp

2) 東京キタン会

〈定期総会〉

2019年度の事業報告・決算報告と2020年度の事業計画・予算を審議します。午後には講演会及び懇親会を予定しています。

日 時：2020年6月27日(土) 11時～15時

開催場所：学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail: info@tokyo-kitankai.com

〈秋の催事〉

2019年度は「豊洲市場見学&東京オリンピック会場観覧クルーズ」を楽しみました。2020年度は、企画が決まりましたら改めてお知らせ致します。

日 時：2020年10～11月に開催の予定(詳細未定)

開催場所：未定

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail: info@tokyo-kitankai.com

〈ゴルフ会〉

東京キタン会メンバーの有志によるゴルフ会です。2020年度は3回の開催を予定しています。

日 時：2020年5月18日(月)、10月5日(月)、11月16日(月)

開催場所：川越グリーンクロス

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail: info@tokyo-kitankai.com

3) 2020年名大鏡友会東日本支部総会・講演会・懇親会

令和となって初めて、鏡友会として2回目の総会です。

講演会は、本学科教授、本多裕之様の「ヒトに働くペプチドを作る」です。

日 時：6月6日(土) 13時より

場 所：学士会館 210号室
会 費：5000円
ホームページは以下です。
<http://www.chembio.nagoya-u.ac.jp/kyoyu-kai/plan.html>
問い合わせ先：西村章三（世話人代表）
E-mail：nishimura1018@ab.auone-net.jp

4) 共晶会関東支部 第35回総会

日 時：2020年11月15日（日） 11：00～14：30
場 所：学士会館 302号室
連絡先：黒岩和典（1977年戸澤研卒）
kuroiwa779618@gmail.com
kuroiwa@angel.ocn.ne.jp
特別講演：名古屋大学工学部マテリアル工学科
准教授 稗田純子先生

5) 農学部同窓会関東支部『新卒者歓迎会』

名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科を今春卒業し関東地域に来られた方々を対象に、歓迎会を開催します。昼食会を兼ねた懇談会で、新卒者は参加費無料です。
日 時：2020年6月6日（土） 10：00～16：00
場 所：学士会館内「名古屋大学東京連絡所」／和食「二色」
内容と申込方法：支部 HP に詳細を掲載すると共に、新卒者にはメールでお知らせします。
担 当：支部事務局長 春日井 治
E-mail：1209cebw@jcom.zaq.ne.jp
支部 HP：http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/

○名大遠州会

名大遠州会第25回同窓会・第13回総会
日 時：2020年6月13日（土） 18：00～
場 所：オークラアクトシティホテル浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

○関西支部

1) 関西支部第15回総会、懇親会

関西支部では、下記の日程で第15回総会、懇親会を開催いたします。大学から松尾総長、和田代表幹事にもご出席いただきます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちいたしております。
開催日時：2020年5月23日（土） 14時から19時
場 所 中央電気倶楽部
住 所：大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL：06-6345-6351
ご挨拶：藤井眞澄（名古屋大学全学同窓会関西支部長）
*講演会（5階大ホール）
講演者：森島邦博（名古屋大学理学研究科 特任助教）
題目：素粒子ミューオンの活用事例と今後の展望～見えないものを見る…ピラミッド内部の構造調査など～
*総会（5階大ホール）
和田壽弘（名古屋大学全学同窓会代表幹事）
題目：全学同窓会活動報告
松尾清一（名古屋大学総長）題目：未定
*懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）
連絡先 関西支部事務局長：脇田喜智夫
（御所南法律事務所 TEL075-253-0777）
E-mail：office@goshominami.jp

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

2) 令和2年（2020年）農学部同窓会関西支部（関西セコイア会）総会・講演会・懇親会

日 時：2020年11月7日（土） 10：00～15：00
場 所：中央電気倶楽部（大阪堂島）
行事内容：総会議事の後、生命農学研究科長および農学部長の土川覚先生に農学部の現状・課題等をお話しいただき、午後は懇親会を行います。
連絡先：（事務局）寺前朋浩
〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23
電話：0797-84-0635
E-mail：rikatomo@ares.eonet.ne.jp

○岐阜支部

東海国立大学機構発足記念講演会・支部総会 & 交流会
開催日：2020年6月6日（土）講演会14：00～／交流会17：00～
場 所：岐阜グランドホテル ロイヤルシアター（800席）
（岐阜市長良648 電話058-233-1111）
岐阜大学との統合による東海国立大学機構発足を記念し、学士会・名古屋大学全学同窓会との共催で、一般の方々も参加できる、未来材料・システム研究所の天野浩教授（2014年ノーベル賞受賞）による公開講演会を行います。講演会終了後、同ホテルで、同窓会会員のみの支部総会・交流会を開催します。
*詳細情報は今後、HP やメール等でお知らせいたします。
講演会事務局：小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック
E-mail：b.ogasaw@orion.ocn.ne.jp
岐阜支部事務局：秋山晶則
E-mail：2019nugaa@gmail.com

○名大農学部同窓会

2020年度名古屋大学農学部同窓会 評議員会、総会、講演会、懇親会
農学部では、昨年度から名古屋大学ホームカミングデイに合わせて同窓会を開催しております。詳細は、農学部同窓会 セコイア会 HP (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) にてご案内いたしますので、後日ご確認ください。
*評議員会
日 時：2020年10月17日（土） ほぼお昼頃
場 所：名古屋大学農学部
*総会、講演会
日 時：2020年10月17日（土） 午後
場 所：名古屋大学農学部
会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）
講 師：山本敦司（やまもとあつし）氏
農学博士（昭和58年3月本学農学部農学科卒業、昭和60年3月同博士課程前期課程修了）、現日本曹達（株）上席主幹
演 題：「殺虫剤抵抗性管理・対策を生産者に伝える～害虫防除に必要なもう一つのテクニック～」
*懇親会
日 時：2020年10月17日（土） 夕刻
場 所：名古屋大学農学部（予定）
連絡先：農学部同窓会 総務 山本浩之
メールアドレス：hiro@agr.nagoya-u.ac.jp

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043
自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当
052-747-6559 (9:00~16:00) sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**17,000名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

- ① WEBからのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>
- ② 入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

- カード優待サービスの企業を募集しています。
 - ニュースレターへの企業広告を募集しています。
- いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

今号も、ホームカミングデイ、ウズベキスタン支部10周年、小笠原岐阜支部長のご講演など、多彩な紙面となりました。また、活躍する会員たちでは、日本の漫画・アニメ界を長く牽引され、現在も益々活躍の辻先生から貴重なお写真をいただきました。多くの卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしく願いいたします。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.33 令和2(2020)年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会